

(様式1)

### 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>. 理念に基づく運営</b></p>			
<p><b>1. 理念と共有</b></p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>独自の理念と共に、その人らしく生活出来るよう支援している。</p>	<p>地域の中で暮らしていく上で、利用者本位の暮らしを支えていける様、独自の理念を事業所内に掲示している。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念・日々の方針・目標を職員に伝え、話しあっている。</p>	<p>日々のミーティングで共有化が図られている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>入居時に説明し、ご家族の同意を得ている。ホーム便り・家族会等で理解していただいている。</p>	<p>ホーム内の掲示。パンフレット。</p>
<p><b>2. 地域との支えあい</b></p>			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>地域の中の住居なので、普通の家と同様に近所との会話、回覧板を回す等で、野菜をいただき、あげたりと、良い関係を作っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>必要な場合はいつでも活用できるように心構えている。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の急病や急な休みの時に、職員同士が応援してくれる配慮をしている。</p>		
<p><b>5. 人材の育成と支援</b></p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修やヘルパー2級、介護福祉等の研修を行っている。</p>		
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修、ホーム内での勉強会でサービス向上に取り組んでいる。</p>		
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の話をよく聞き、各自のストレスや背景をよく理解している。親睦や気晴らしの機会作り。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の話をよく聞き、各自のストレスや背景をよく理解している。親睦や気晴らしの機会作りをしている。</p>		<p>申し送り時に指導や助言をしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>			
<p><b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b></p>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>お互いに信頼を築いていけるようによく話を聞きいれ何でも話してもらえるように心掛けている。</p>	<p>本人、家族が不安にならないように全職員が優しい環境作りを心がけている。</p>
22	<p>初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人の希望、生活歴等聞き、家族の方が必要としている支援を見極め、本人が安心して利用できるような対応に努めている。</p>	<p>必要な介護サービスが出来る様努力している。</p>
23	<p>馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>生活歴などを知り、混乱しない様ゆっくり馴染めるような環境作りを心掛けている。</p>	<p>本人の暮らしぶりを理解すると共に馴染んでいける様心がけている。</p>
<p><b>との</b></p>			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事の下ごしらえ、編み物、裁縫、畑作り等、趣味や生活歴を生かして、個々の出来る範囲内の日常生活を一緒に過ごし、楽しむ関係や場を作る。</p>	<p>尊重しながら日々の介護に努め、又支えあう関係を築いている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	人生経験等の話を聞き、話しを理解する様努める。		利用者と職員が一緒になり、家族的に喜怒哀楽を共に支えていく関係を保っている。
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の要望を聞き、家族に電話を入れたり、面会に来てもらったり、家族の了解を居て帰宅するときもある、		家族との面会時お茶などで良い雰囲気が保たれるようにしている。
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者には、本人との関係を聞き、自室にてゆっくりと会話を楽しんでもらう、		外出の機会を作り、本人の希望の場所へつれて行くようにしている。
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が良い関係を作れるように、必要に応じて声掛け等の配慮をしている。		日常生活で孤立しないよう気をつけ、全員が楽しめるようにしている。
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族の方には、最近の状況、状態を常に報告し、利用者にも納得してもらう。		サービス利用が終了した家族に、その後の状況等聞いたりホームで開く地域交流会に参加してもらったりしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>			
<p><b>1.一人ひとりの把握</b></p>			
30	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>なるべく希望に沿うようにして一人一人の暮らしを大事にしている。</p>	<p>個々の性格を踏まえて、要望や意向に沿うようにしている。</p>
31	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>一人ひとりの生活歴に関する情報を本人と家族から教えてもらい、ケアに活かす様にしている。フェイスシート・家族状況・インフォーマル等の状況シートを見る。面会の機会にシートに書いていない事を聞き把握する様にしている。</p>	<p>面会の際、家族との会話を多くし、情報を集める様にしていきたい。</p>
32	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎日決まった時間にバイタルチェックを行っている。個々の特徴や生活リズムを把握し、したい事・出来る力を見つけ援助する。</p>	<p>個々の生活リズムを把握し、過ごしやすい様支援する。</p>
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>会議はもちろん、日常での変化があったときなどは常時全職員でカンファレンスを行い、計画書に活かしている。</p>	<p>家族には面会に来た時など意見、要望を聴くようにしている。</p>
34	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>通常6か月に1度に見直しを行っている。状態に変化があった場合はすぐ話し合いを行い、計画の見直しを図る事にしている。</p>	<p>状態に応じて見直しを行う時もある。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人別の支援記録やモニタリングなど、全職員目を通し情報を共有して実践に取り組んでいる。</p>		<p>月ごとに職員が記録シートに記入し、計画書見直しの際参考にして取り入れている。</p>
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者の代わりに買い物したり自宅の様子を見に行ったりと個々の要望に対応している。</p>		<p>本人はもちろん、家族の状況の変化にも対応できるように心がけている。</p>
<p><b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b></p>			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>各機関共に連絡を取り合い協力をお願いしている。</p>		<p>お話し会など定期的に協力をお願いしているものもある。</p>
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>地域の他の施設などから情報を得ている。</p>		<p>必要に応じて情報交換を行っている。</p>
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議等で情報交換している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、入居者・家族と話しあい、受診する医療機関を個別に決めている。		
41 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医などに十分説明し、職員が相談できる専門医を確保している。		
42 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	地域の看護職同士の話し合い・相談等を日常の医療活用に取組んでいる。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族に経過をよく説明し、早期退院について家族と医療機関のやりとりがスムーズに行えるように支援している。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	身体の状態の変化をチェックしその記録等を家族や医師に提供している。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	全職員が内容を把握し、早期の対応策について周知している。変化に備えて早期受診。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族と一緒に本人へ分かりやすく説明し、話し合い、情報交換を行う。		住み替えの理由を聞き、当ホームの欠点を改善する。
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b> (1)一人ひとりの尊重			
47 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常会話・言葉掛けには細心の注意を払っている。たよりやホーム内に写真や名前が貼り出される場合は本人・家族の了解を得ている。来客者の前では他人情報は話さない。		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の会話の中から、思っている事・望みを話してもらう信頼を得る。説明は行うが、本人の意思で決め納得しながら暮らせる様支援している。		個々の言動に注意して見る様にし、思いが分かる様努力する
49 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュール以外、希望・要望を出来る限り叶えられる様支援する。		無理にさせるのではなく、個々のペースに合わせて日々を過ごせるよう援助する。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容は本人希望通りにしている。直接店に行けない方の為に、ホームに美容師さんに来てもらっている。		職員と買い物と一緒に出かけ、一緒に服選びもしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや後片付けの食器・お盆拭きを一緒に行っている。おかずの好み、日々の体調を把握した調理方法をしている。		一緒に食事することで和やかな雰囲気がある。新しいメニューを取り入れてみる。
52 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲食物は、好みの物は各利用者の要望で提供出来る様、日常的に支援している。		希望により、食事に出している。
53 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄の習慣を知り、気持ちよく出来るよう声かけ、前誘導を行っている。		一人一人の排泄習慣を知り、時間毎の声かけを行っている。
54 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回行っている。入浴が難しい時は、足浴や清拭も行っている。男性の利用者さんがいるので、羞恥心に配慮して介助している。		本人の意向に沿った入浴方法に努めている。
55 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を大切に安心して休息できるよう、個々の睡眠記録で把握している。		その時の状況(外出や行事等)に応じて、十分休める様配慮している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の中で一人ひとりの楽しみごと、役割、出番を見出し、場面を作り出す努力をしている。		家事や畑作業、歌や踊り等、好きな事や得意な事で、張りのある生活を送れる様にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金を使えるように、ホーム内に月1回パン屋・ヤクルト屋に来て頂いている。個々に支払している。		ホーム内の買い物、ヤクルト・パン販売
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体力に応じて、近所への散歩や買い物等、天気が良ければ、戸外で開放感を味わってもらう。		天気や体調に配慮した上で希望にそった外出を心掛けている。
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	自宅の様子等、気になる時は家族や職員と一緒に付いて出掛けている。花見や紅葉狩り等行っている。		外出の他、個人的に行きたい所に連れて行ける様にしている。
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、自由に掛けさせているが、掛けられない人には職員が手伝っている		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を、設けていないので、好きな時気軽に訪ねて来れるように配慮している。		
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が、身体拘束しないケアを理解し、日々のミーティングや、会議の中で話し合い、確認し、身体拘束しないケアに取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の鍵かけはしておらず、出て行く気配を職員が見守り、一人ひとりの癖や傾向をつかんで対応している。		止めるのではなく一緒について行く。自由な暮らしを支えるようにしている。
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は必ず職員が見守り、夜間も居室が見える場所に居るようにしている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物は、職員控室に保管。刃物等の保管は手の届かない所へ職員が管理しているが、必要に応じている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個人に特に注意の必要な事を把握し、見守り、声かけ等で事故防止に努めている。職員が内容や流れを把握し適切な行動が取れるように取り組んでいる。		緊急時対応マニュアルを作成している。
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	1、事故にまでいたらなかった、ヒヤリハット・報告書も取り入れている。 2、問題点をさぐり、再発防止のための話し合いが行われている。		事故報告書を作成
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の立ち合いで火災を想定し、避難訓練を行っている。職員、入居者共に避難できる方法を身につけている。		避難訓練、避難通路の確保、消化器の使い方、消防署への連絡方法等の訓練は行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスク対応に関しては、その都度家族に説明し、話し合いを行っている。		その都度家族に説明している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の体調の変化の早期発見に努めている。		身体の異変の早期発見、毎日のバイタルチェック等で健康管理に努めている。
71 服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の種類や服薬方法について情報をえる。薬の適切な管理方法も知る。薬の副作用のついてもかかりつけの医師や看護師等から聞いておき身体の観察に留意する。		個々の介護日誌に処方箋を備えて、職員はいつでもわかる様にしている。
72 便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事、排泄、活動状態等を見直し、自然排尿を促す工夫を個別にしている。		毎日の運動(軽い体操、ホーム内の散歩)、食事に気を配っている(水分補給等)。
73 口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人のできる事、できなくなった事を把握し、個別に働きかけ困難な方は状況に合わせて職員が支援する。		毎食後の歯磨き、うがいを職員と一緒にしている。週3回、洗浄剤での義歯消毒を行っている。
74 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々人にあつた一定量を食事から摂取する。水分の摂取量も十分取れる様に工夫して。(水、麦茶、ほうじ茶)。職員が分担しメニュー作成し管理者が目を通す。		適度に水分補給を行い、決まっている他に状態に応じて回数を増やしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルや感染症に関する情報を集めたファイルを作り学習している。インフルエンザの予防接種は職員、入居者共に行っている。介護の前後の手洗いの励行、自分自身の健康状態を良好に保つ。排便後の手洗いの励行。		集団生活の為、入居の時、診断書提出。インフルエンザ予防接種を行い又、衛生面で気をつけ、共用部分等の消毒の徹底を行っている。
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品の冷所保存。調理人の手指の清潔。まな板、包丁等の調理器具の洗浄と乾燥に努める。		食器、調理器の定期的な消毒、調理者の手洗いをを行い、食材の管理など気を付けている。
(1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	段差がない為、車椅子でも出入りできる。開放感のあるガラス貼りの玄関に、花を飾り、明るい雰囲気にし、安心して出入りできるようにしている。		玄関周りには、草花を飾り、家庭的な雰囲気、親しみやすく工夫している。
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに装飾を変え、庭に咲いた花も飾っている。ソファには、個別の座布団やひざ掛け等置き、のんびり過ごせるようにしている。		季節を感じる室内装飾を心掛け、ソファには個別の座布団をおき、のんびり過ごせるようにしている。
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士話しが出来るように、椅子の配置を考えている。調理の下ごしらえを手伝ってもらう時は、声をかけ、皆で会話しながら行っている。		利用者同士、話ができるように、椅子の配置を考え、又、広い場所を確保する場合は椅子を寄せたりしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>必要に応じて居間の模様替えをしたり、座る場所を替えたりしている。又、使い慣れた物や必要な物を持って来て貰い、住み心地良く生活していけるようにしている。</p>		<p>本人の要望と家族との話し合いで、その人らしく居心地良く過ごせるように工夫し、又清潔な環境に努めている。</p>
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>適度に窓を開け、空気の入替えをしている。夏でも寒いと訴える利用者もいるので、風が当たらないように配慮している。冬は温度計をチェックし、こまめに暖房を調節している。</p>		<p>適度に窓を開け、空気を入れ替え、外気温との差がない様に配慮している。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>車椅子の利用者でも、短い距離は、手すりにつかまり歩くよう励ましたり、シルバーカーや杖、トイレのスリッパ等、つまずかないよう安全な場所に移動し、見守りを行っている。</p>		<p>手すり、段差のない床、玄関前もスロープになっている。利用者の立場になり、自立した生活が送れるように配慮している。</p>
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>分かりやすいよう大きな字で場所を表示したり、混乱のないよう、職員がさりげなくサポートしている。</p>		<p>利用者が何をしたいのか、何を望んでいるのかしっかり受け止め、利用者に協力してあげ、混乱をなくする。</p>
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>外に出て歩くのが難しくなってきた利用者が多いので、開放感のあるリビングの窓から、外の花壇や畑を眺めたり、広いリビングにて、レク活動を行っている。</p>		<p>庭の花壇や畑など、景色を楽しんだり、広いリビングにて行えるレク活動を工夫していきたい。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に 印をつけてください)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者個人個人を尊重しながら、家庭的な生活ができるようにこころがけています。